

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査

算数 B

正答率比較

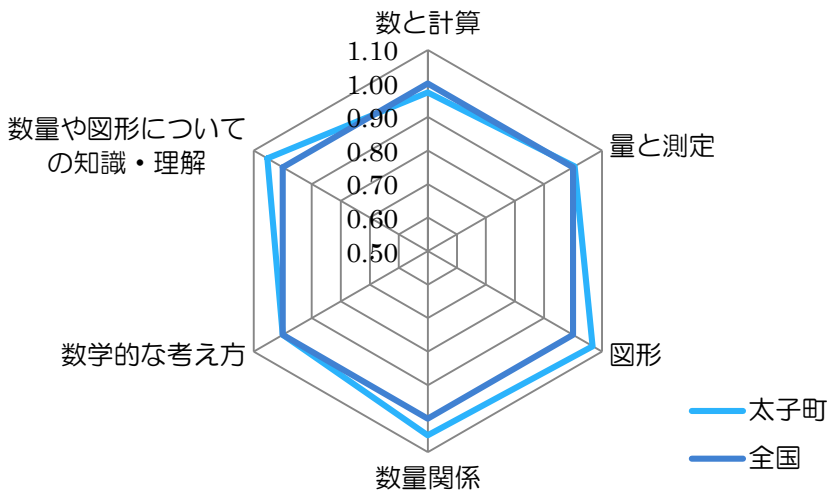
■ 正答率 ■ 誤答率 ■ 無解答率



全国の平均正答率が、46.0%であるのに対し、太子町の平均正答率は46.4%であり、0.4ポイント上回った。

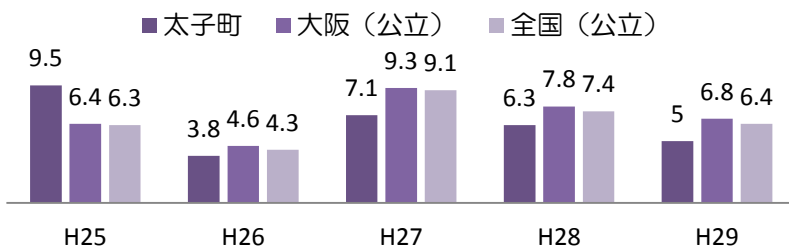


全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



全体的に全国平均を大きく上回り、これまでの取組みの成果が見える。算数 A で課題であった「量と測定」は、「数量関係」との複合問題であったことが数値の向上につながったと考えられる。

無解答率



無解答率は経年比較すると、昨年度より全国的に 10 ポイントずつ減少している。本町は昨年度よりも 1.3 ポイント減少し大きく改善がみられる。



成果と課題

昨年度、算数 B は大きく改善した。今年度、昨年度よりも結果数値は下がったものの、全体的に全国平均を上回ることができた。特に「数量関係」の項目では、大半が平均正答率が全国平均よりも高く、得意分野ととらえる児童が多いようである。

選択式のような判断する問題や、求め方と答えを記述する問題などは比較的得意なようだ。しかし、示された方法を問題場面で適用する力を問われた短答式問題では正答率が低く大きな課題と言える。

